

大学教育再生加速プログラム(AP) 事後評価結果

整理番号	72	大学等名	大阪工業大学
テーマ	テーマV 卒業時における質保証の取組の強化		

（「大学教育再生加速プログラム委員会」による評価）

【総括評価】

S：計画を超えた取組が行われ、優れた成果が得られていることから、本事業の目的を十分に達成できたと評価できる。

【コメント】

大学改革の加速については、各授業科目のミニマム・リクワイアメント（最低限修得すべき資質・知識・能力）の明確化、ディプロマ・サプリメント・システム（以下、「DSシステム」という）による学修成果の可視化と学生の自律学修の促進及び効果的な修学指導の強化を基軸とした本事業は、「適正な成績評価基準に基づく厳正な成績評価の実施」という学長方針に基づいて推進されている大学改革を牽引する役割を果たしたと高く評価できる。

事業の具体的な取組の進捗状況については、極めて高い目標値設定がなされているが、そのほとんどの指標について目標値を達成あるいは目標値に近似した実績値となっている。必須指標である「学生の成績評価」及び「学生の授業外学修時間」については、目標値に達しなかったものの、事業開始年度より増加していることに加えて、補助期間終了後の改善のための具体的な取組が明確に示されていることから、今後の目標値達成が十分に期待できる。また、中間評価時に付された留意事項についても、真摯な対応状況が確認できることも評価できる。

事業の定着に向けた実施体制及び継続のための取組状況については、学長を委員長とする「教育 IR 統括委員会」による全学的な教育改善方針の策定、「教育推進委員会（全学及び各学部）」及び「教務委員会」による具体的な取組の検討と実施、「実効力評価委員会」及び「自己評価委員会」における外部・内部評価と点検、そして「教育 IR 統括委員会」における改善の検討といった PDCA サイクルを機能させるシステムの確立を通して事業の定着・継続に向けた実施体制が整備されていることは評価できる。また、工学部を中心に展開されてきた教育改革を通して蓄積された経験知は、教育推進委員会等の委員会や FD・SD フォーラム、共同での教職員研修を通して、全学に共有されてきたことから、補助期間終了後も継続的かつ発展的に事業が実施されることが十分に見込まれる。さらに、DSシステム、IRシステムの運用をはじめ、各種調査アンケートについても継続的に実施する体制と資金が確保されていることから、これらのデータ分析に基づいた教育の質保証の強化並びに社会的要請への適合に向けた取組が今後も着実に推進できるものと評価できる。

事業成果の普及については、本取組で得られた知見・ノウハウ、開発されたツールを当該大学の Web サイト上で積極的に情報公開していることは評価できる。また、「適正な成績評価基準に基づく厳正な成績評価の実施」という明確な全学方針に基づいて、制度体制と具体的な取組が整合性を持って組み立てられ、検証を通して改善されるシステムとして確立されている好事例であり、事業の企画・運営の観点からも先駆的なモデルとなる取組が行われていることは高く評価できる。